

人口減少と高齢化の進行が農村社会にもたらす影響

ー 西暦2050年における農村人口と集落構造の予測結果から ー



平成26年 6月
農林水産政策研究所

1. 農村地域の人口推移と将来予測

- 人口減少の進行は、農業地域類型間で大きな差。人口減少に転じた時期が早い地域（山間農業地域は70年以降一貫した減少）ほど、人口減少が進むと見込まれる。
- 2010～50年の40年間で、山間農業地域の人口は3分の1に減少し、約半数が65歳以上になると見込まれる。平地農業地域でも人口が約4割減少し、高齢化率が40%を超える。

(指数：1990年=100)

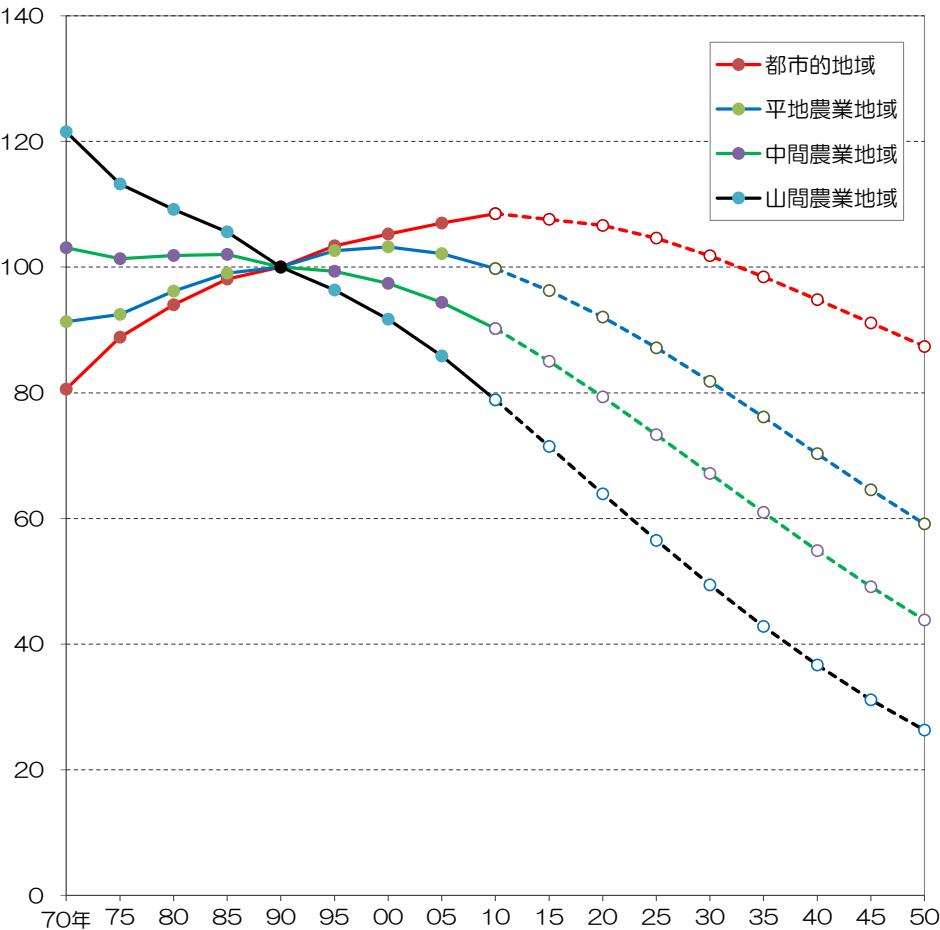


図1 農業地域類型別の人口推移と将来予測

表1 農業地域類型別の人口推計結果

		2010年	2020年	2030年	2040年	2050年
実数 (1,000人)	全 国	126,891	122,813	115,142	105,946	97,029
	都市的地域	99,779	98,674	94,396	88,623	82,791
	平地農業地域	12,077	11,184	9,988	8,656	7,385
	中間農業地域	11,177	9,838	8,347	6,866	5,543
	山間農業地域	3,857	3,116	2,411	1,802	1,310
指数 (2010年=100)	全 国	100.0	96.8	90.7	83.5	76.5
	都市的地域	100.0	98.9	94.6	88.8	83.0
	平地農業地域	100.0	92.6	82.7	71.7	61.2
	中間農業地域	100.0	88.0	74.7	61.4	49.6
	山間農業地域	100.0	80.8	62.5	46.7	34.0
増減率 (%)	全 国		▲ 3.2	▲ 6.2	▲ 8.0	▲ 8.4
	都市的地域		▲ 1.1	▲ 4.3	▲ 6.1	▲ 6.6
	平地農業地域		▲ 7.4	▲ 10.7	▲ 13.3	▲ 14.7
	中間農業地域		▲ 12.0	▲ 15.2	▲ 17.8	▲ 19.3
	山間農業地域		▲ 19.2	▲ 22.6	▲ 25.2	▲ 27.3
65歳以上比率 (%)	全 国	23.0	28.4	29.9	33.1	34.5
	都市的地域	21.4	26.6	28.0	31.6	33.1
	平地農業地域	26.0	32.9	35.5	37.9	40.0
	中間農業地域	29.8	36.8	39.8	42.2	44.2
	山間農業地域	34.8	42.3	46.1	48.9	51.1

注：2020年以降の人口は、旧市区町村別に組み替えた国勢調査の人口データを用い、農業地域類型別に実施したコーホート分析による。

注. 国勢調査の組替集計による。なお、2015年以降（点線部分）はコーホート分析による推計値に基づく。

2. 農業集落の変容と集落活動（現況）

- 集落人口（構成世帯員）の減少によって農業集落の小規模化が進行。中山間地域では2000年から総戸数も縮小局面に入っている。
- 2010年の集落調査結果をみると、人口規模の小さな集落、高齢化率の高い集落ほど集落活動が低下する傾向にある。特に、人口が9人以下の集落で実施割合が顕著に低下している。

表2 中央値でみる平均的な農業集落像

	1集落当たり総戸数 (戸)			農 家 数 (戸)			1集落当たり 総人口 (人)		高齢化率 (%)		1集落当たり耕地 面積 [属地面積] (ha)		
	90年	00年	10年	90年	00年	10年	00年	10年	00年	10年	90年	00年	10年
全 国 (算術平均)	48 (131)	52 (164)	50 (175)	22 (28)	18 (23)	15 (19)	194 (579)	175 (575)	25.3 (18.5)	30.4 (24.4)	21 (37)	19 (35)	18 (34)
都市的地域	144	176	200	24	20	16	694	696	18.0	24.3	19	16	14
平地農業地域	51	56	57	27	22	18	222	202	23.7	28.2	37	34	34
中間農業地域	39	41	39	21	17	14	144	125	28.0	33.3	19	17	17
山間農業地域	29	29	26	17	13	11	91	76	32.7	39.0	12	10	10
北 海 道	17	16	15	11	8	6	74	62	26.9	33.3	108	103	109
都 府 県	49	53	52	23	19	15	202	181	25.2	30.3	20	18	17

注 1) 1990年, 2000年, 2010年全てで調査対象となった125,120集落の抽出集計による。

2) 集落の人口は、国勢調査のメッシュデータを集落別に組み替えて推計した。

3) 全国の()内の数値は算術平均である。

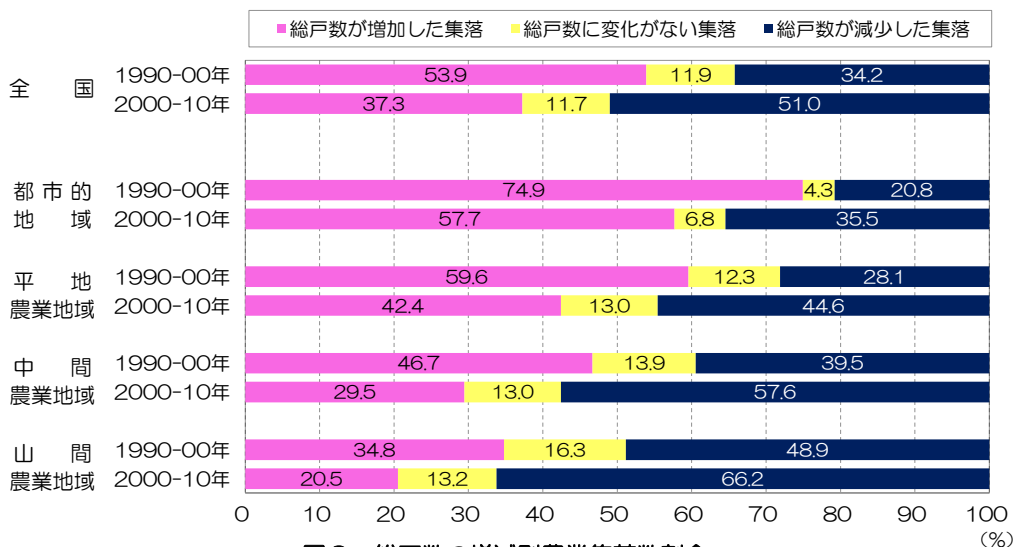
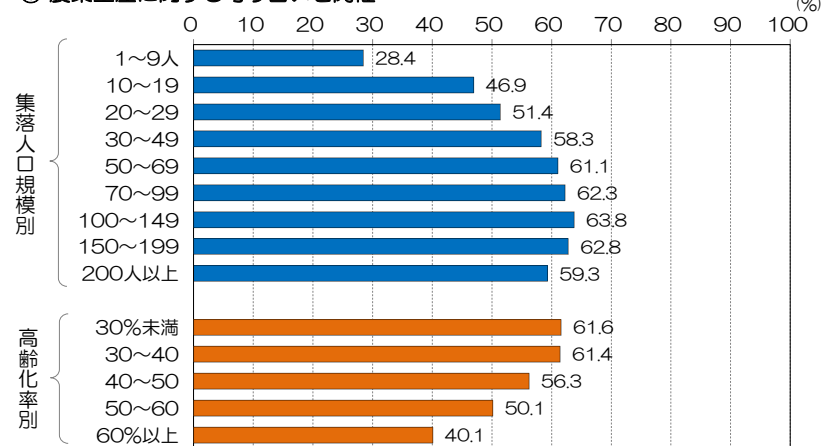


図2 総戸数の増減別農業集落数割合

注. 1990年, 2000年, 2010年の農業センサスで、全て集落調査の対象となった125,120集落の抽出集計による。

① 農業生産に関する寄り合いを開催



② 農業用排水路を集落で保全・管理

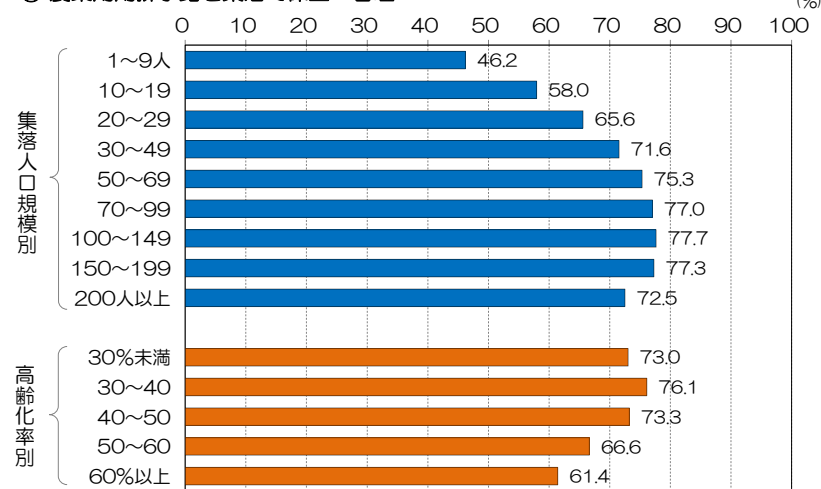


図3 人口規模・高齢化率別にみた集落の活動状況（2010年）

注：国勢調査のメッシュデータを集落別に組み替えて集計した人口に基づく。

3. 2050年の集落人口規模・年齢構成の予測

- 集落ごとのコーホート分析により、2050年の集落人口を推計すると、人口減少による集落の小規模化が一層進行し、「人口9人以下」の集落が全集落の1割を超える。特に、山間農業地域では3割を占めると見込まれる。
- 小規模化と並行して高齢化も加速。過半が65歳以上の高齢者となる集落（「高齢化率50%以上の集落」）が山間農業地域で4割、中間農業地域でも2割を超える。

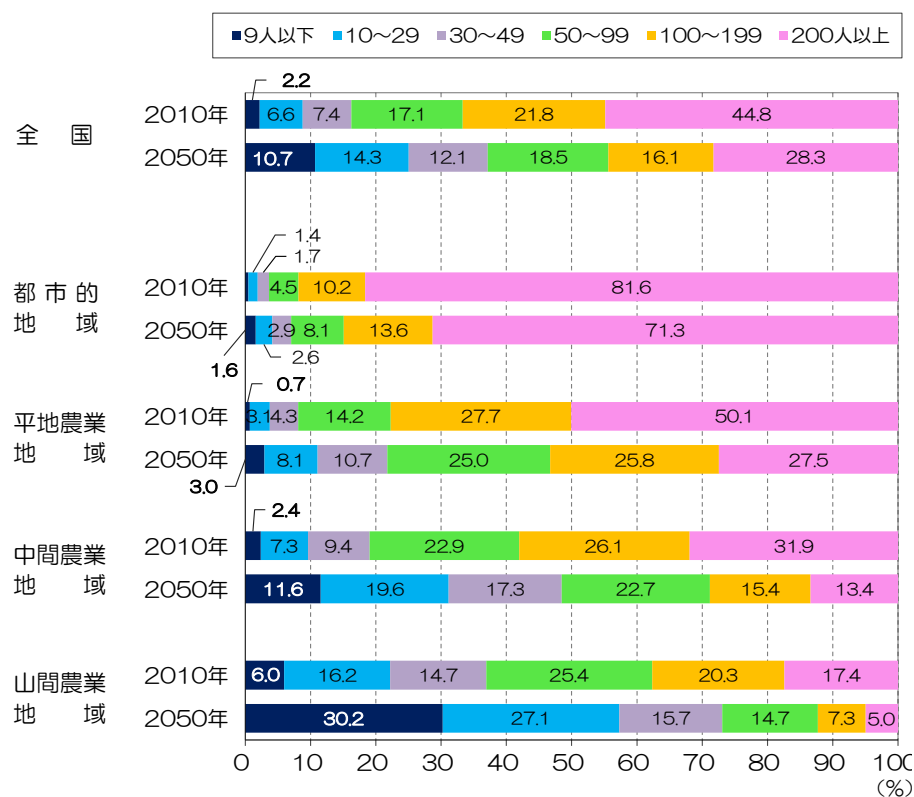


図4 集落人口規模別の集落数構成

注. 2050年の割合は、集落ごとに実施したコーホート分析によって推計した集落人口に基づく。なお、「9人以下」には、無人化した集落（集落人口0の集落）を含む。

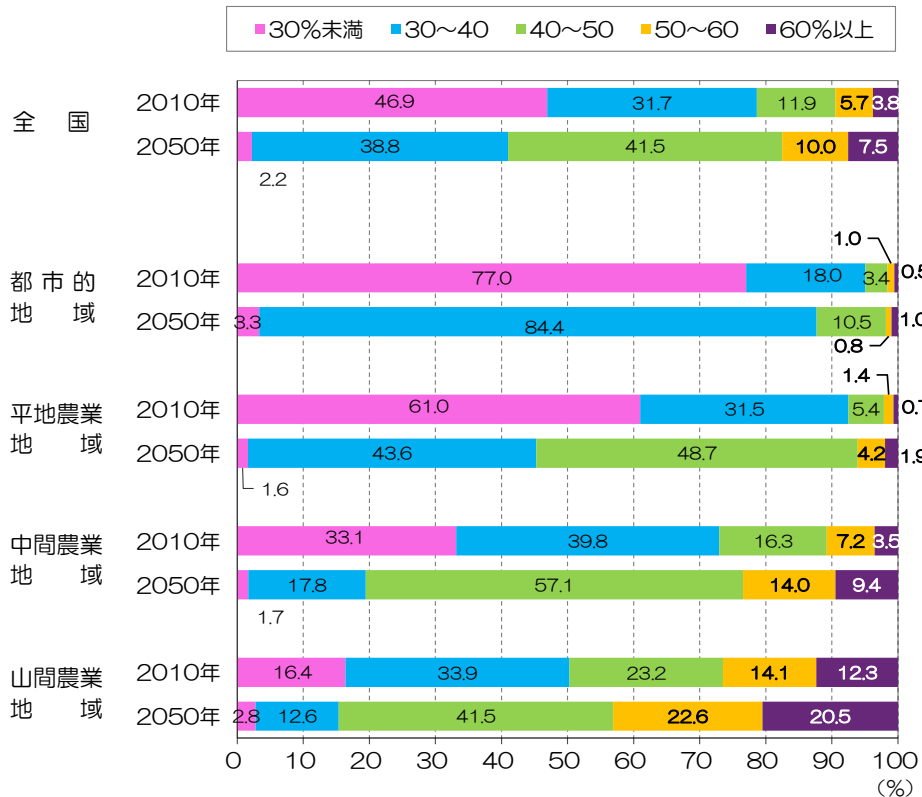


図5 高齢化率別の集落数構成

注. 2050年の割合は、集落ごとに実施したコーホート分析によって推計した年齢別の集落人口に基づく。なお、2010年、2050年ともに、有人集落を母数とした集落割合である。

4. 人口減少と高齢化による集落の変容

- 集落人口が9人以下の集落（無人化危惧集落）が、2010年の3千集落から2050年には1万5千集落へと5倍に増加。また、2050年までに集落の人口が2/3以上減少する（減少率66.7%以上）集落が2万6千集落出現。両者ともにその多くは中山間地域に所在している。
- 有人集落のうち、集落人口の過半を65歳以上の者が占める高齢化率50%以上の集落（高齢化進行集落）が1万3千集落から2万4千集落に増加。他方、「14歳以下の子供がいない集落」も7千集落から1万6千集落に増加すると予測される。

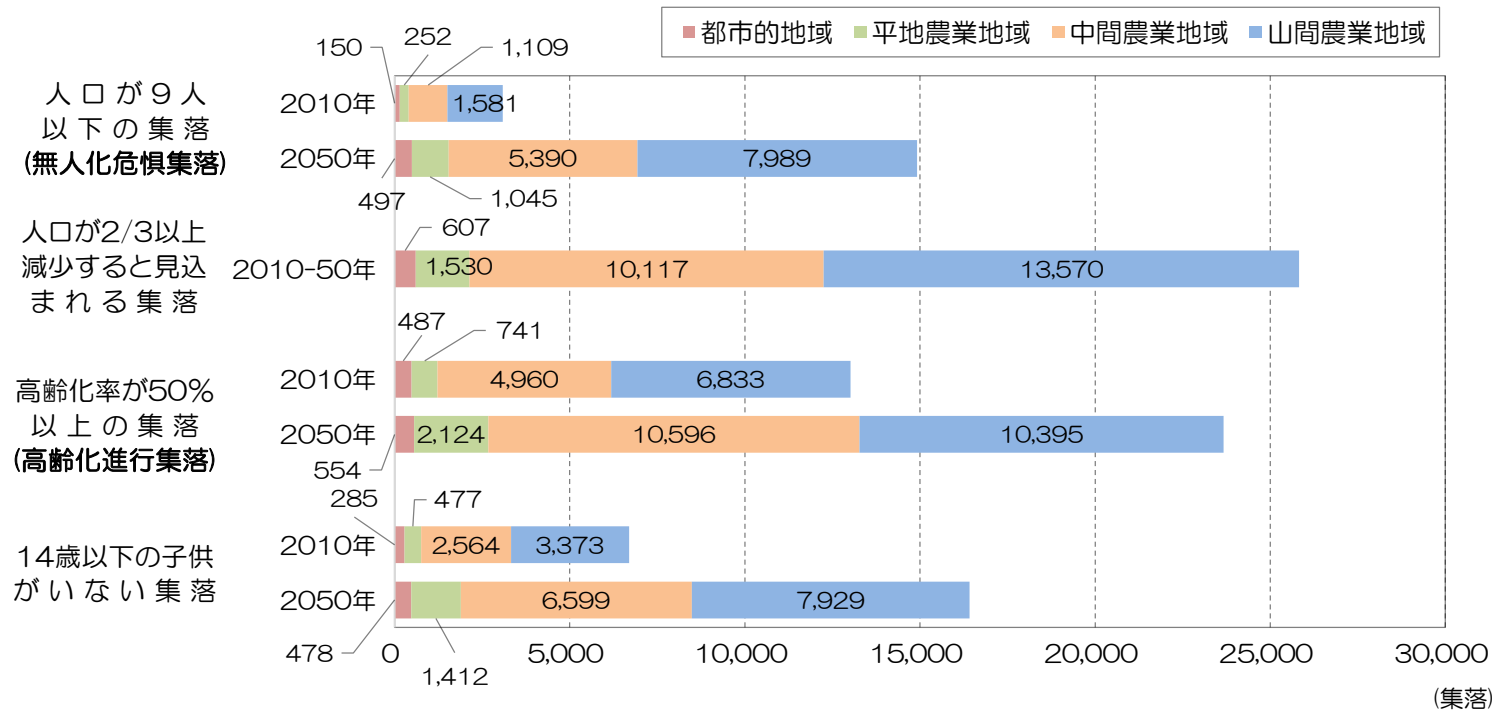
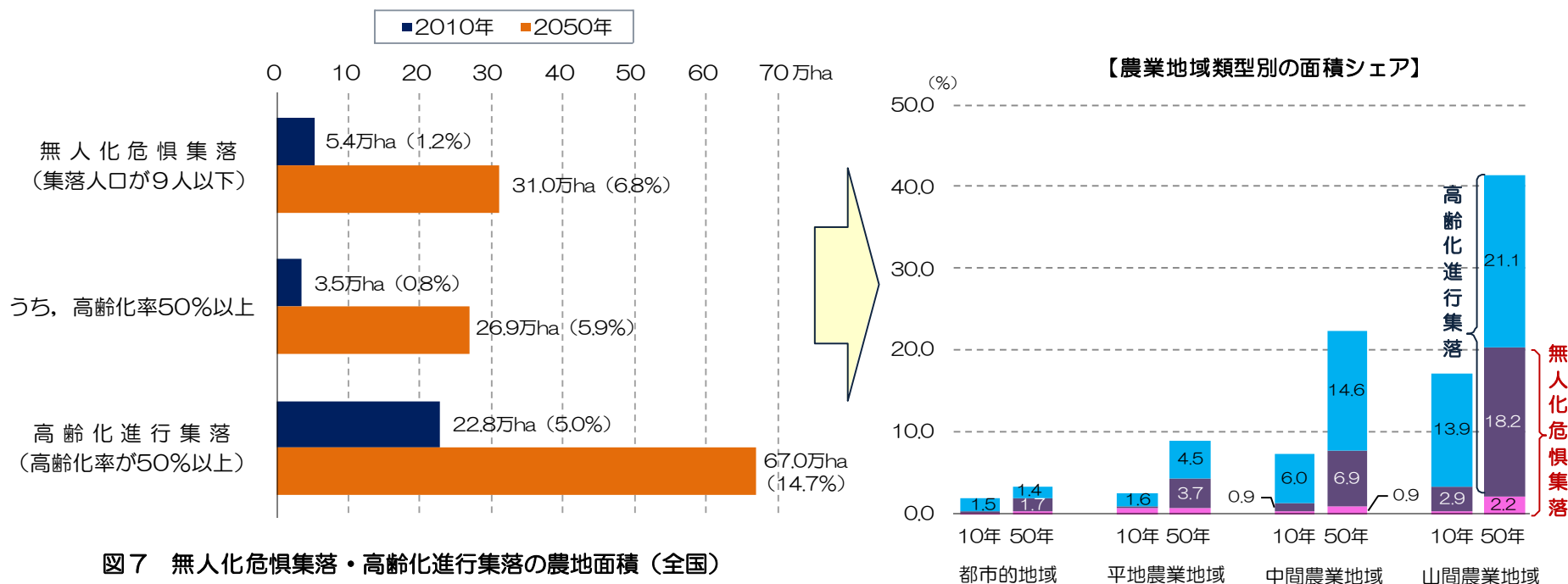


図6 人口減少と少子・高齢化の進行による集落の変容

注. 集落別に組み替えた国勢調査のメッシュ人口（2000年、2010年）を用い、集落ごとのコーホート分析から推計した。

5. 無人化危惧集落・高齢化進行集落にある農地面積の推計

- 2050年に「無人化危惧集落」になると予想される集落に所在する農地は、全国計で31万ha（2010年は5万ha）, 「高齢化進行集落」では67万ha（2010年は23万ha）と推計される。また、両者に該当する集落（13,094集落）の農地は27万haであり、農地総量の5.9%を占める。（農地以外の資源量については、末尾の「参考表」を参照）
- 農業地域類型別にこれら集落の農地面積シェアを見ると、中山間地域、特に山間農業地域で高く、地域の農地の約2割を2050年に「無人化危惧集落」となる集落が、約4割を「高齢化進行集落」となる集落が占めている。これら農地は、集落機能の低下に伴って維持・管理が困難になる可能性が高い。



注. 2050年の農地面積は、集落ごとのコーホート分析によって当該区分に該当すると予測された集落が有する2010年時点での耕地面積（属地）である。なお、（ ）内の数値はシェアを示す。

6. 都道府県別の無人化危惧集落数・高齢化進行集落数

- 無人化危惧集落（集落人口9人以下）の占める割合が、2050年に20%を超えると見込まれるのは、北海道と西日本の島根、山口、徳島、愛媛、高知、大分の各県。
- 高齢化進行集落（高齢化率50%以上）の占める割合が、2050年に20%を超えると見込まれるのは、上記7道県のほか、秋田、東京、石川、和歌山、広島、宮崎、鹿児島県の計14都道県。

表3 都道府県別の無人化危惧集落数および高齢化進行集落数

都道府県名	総集落数	無人化危惧集落 (集落人口が9人以下)		高齢化進行集落 (高齢化率が50%以上)		都道府県名	総集落数	無人化危惧集落 (集落人口が9人以下)		高齢化進行集落 (高齢化率が50%以上)	
	2010年	2010年	2050年	2010年	2050年		2010年	2010年	2050年	2010年	2050年
北海道	7,135	534 (7.5)	1,841 (25.8)	973 (13.6)	2,297 (32.2)	滋賀	1,549	19 (1.2)	54 (3.5)	54 (3.5)	80 (5.2)
青森	1,785	32 (1.8)	95 (5.3)	81 (4.5)	320 (17.9)	京都	1,693	36 (2.1)	201 (11.9)	212 (12.5)	303 (17.9)
岩手	3,615	24 (0.7)	188 (5.2)	177 (4.9)	648 (17.9)	大阪	777	0 (0.0)	12 (1.5)	15 (1.9)	37 (4.8)
宮城	2,644	12 (0.5)	49 (1.9)	44 (1.7)	251 (9.5)	兵庫	3,745	28 (0.7)	154 (4.1)	149 (4.0)	436 (11.6)
秋田	2,765	63 (2.3)	201 (7.3)	137 (5.0)	612 (22.1)	奈良	1,446	19 (1.3)	148 (10.2)	142 (9.8)	249 (17.2)
山形	2,725	93 (3.4)	215 (7.9)	117 (4.3)	316 (11.6)	和歌山	1,597	27 (1.7)	232 (14.5)	279 (17.5)	334 (20.9)
福島	4,152	28 (0.7)	193 (4.6)	182 (4.4)	452 (10.9)	鳥取	1,626	20 (1.2)	143 (8.8)	136 (8.4)	310 (19.1)
茨城	3,816	3 (0.1)	42 (1.1)	52 (1.4)	189 (5.0)	島根	4,088	134 (3.3)	860 (21.0)	625 (15.3)	1,123 (27.5)
栃木	3,311	9 (0.3)	57 (1.7)	44 (1.3)	273 (8.2)	岡山	4,576	60 (1.3)	530 (11.6)	545 (11.9)	890 (19.4)
群馬	2,018	21 (1.0)	125 (6.2)	125 (6.2)	215 (10.7)	広島	5,258	166 (3.2)	981 (18.7)	892 (17.0)	1,409 (26.8)
埼玉	4,066	36 (0.9)	114 (2.8)	78 (1.9)	164 (4.0)	山口	4,191	140 (3.3)	891 (21.3)	870 (20.8)	1,190 (28.4)
千葉	3,517	6 (0.2)	25 (0.7)	40 (1.1)	267 (7.6)	徳島	2,247	103 (4.6)	492 (21.9)	481 (21.4)	577 (25.7)
東京	166	0 (0.0)	14 (8.4)	22 (13.3)	47 (28.3)	香川	3,179	37 (1.2)	228 (7.2)	194 (6.1)	391 (12.3)
神奈川	1,409	5 (0.4)	12 (0.9)	9 (0.6)	47 (3.3)	愛媛	3,196	115 (3.6)	678 (21.2)	598 (18.7)	852 (26.7)
新潟	5,088	180 (3.5)	558 (11.0)	479 (9.4)	804 (15.8)	高知	2,459	126 (5.1)	607 (24.7)	595 (24.2)	805 (32.7)
富山	2,220	122 (5.5)	274 (12.3)	180 (8.1)	293 (13.2)	福岡	3,461	16 (0.5)	98 (2.8)	116 (3.4)	210 (6.1)
石川	1,931	87 (4.5)	342 (17.7)	305 (15.8)	461 (23.9)	佐賀	1,935	22 (1.1)	72 (3.7)	40 (2.1)	96 (5.0)
福井	1,818	44 (2.4)	141 (7.8)	120 (6.6)	213 (11.7)	長崎	2,947	47 (1.6)	188 (6.4)	196 (6.7)	375 (12.7)
山梨	1,614	30 (1.9)	185 (11.5)	188 (11.6)	303 (18.8)	熊本	4,208	39 (0.9)	342 (8.1)	321 (7.6)	671 (15.9)
長野	4,736	153 (3.2)	623 (13.2)	533 (11.3)	878 (18.5)	大分	3,313	79 (2.4)	661 (20.0)	648 (19.6)	997 (30.1)
岐阜	3,118	61 (2.0)	195 (6.3)	161 (5.2)	382 (12.3)	宮崎	2,663	61 (2.3)	358 (13.4)	301 (11.3)	548 (20.6)
静岡	3,366	41 (1.2)	185 (5.5)	195 (5.8)	370 (11.0)	鹿児島	6,059	167 (2.8)	1,011 (16.7)	1,026 (16.9)	1,424 (23.5)
愛知	3,094	13 (0.4)	127 (4.1)	125 (4.0)	205 (6.6)	沖縄	745	1 (0.1)	12 (1.6)	13 (1.7)	56 (7.5)
三重	2,109	33 (1.6)	167 (7.9)	206 (9.8)	299 (14.2)	全国計	139,176	3,092 (2.2)	14,921 (10.7)	13,021 (9.4)	23,669 (17.0)

注1) 総集落数は2010年の農山村地域調査による。また、無人化危惧集落数および高齢化進行集落数は、集落別に組み替えた国勢調査のメッシュ人口を用いて推計した。

2) 2050年の集落数は集落ごとのコーホート分析による。なお、無人化危惧集落数には人口が0の集落を含む。

3) ()内の数値は総集落数に占める無人化危惧集落数または高齢化進行集落数の割合であり、20%を超える都道府県を網掛けした。

7. 無人化集落の特徴 -2000年農業集落調査から-

- 2000年農業集落調査の対象集落の中から、総戸数が9戸以下の「小規模集落」（既に集落機能が無くなっていた農家点在地集落は含まない）を抽出し、これら集落のうち、2010年までに「無人化した集落」の特徴を見ると、際だって零細であったことに加え、多くが振興山村地域や豪雪地帯の指定地域内にあり、集落の中心地の標高も高い等、より厳しい立地条件下にあったことがわかる。また、集落活動も「総戸数と人口が増加した集落」に比べ押し並べて停滞していた様子が確認できる。

表4 2000年の小規模集落のうち、「無人化した集落」と「総戸数と人口が増加した集落」の比較

			2000～10年の間に無人化した集落	2000年から総戸数と人口が増加した集落				2000～10年の間に無人化した集落	2000年から総戸数と人口が増加した集落
集落規模 (MD)	総土地面積	(ha)	433	187	共同活動	年間寄り合い実施回数	(回)	4.2	7.4
	うち、林野面積	(ha)	341	109		寄り合いの議題種類数	(種類)	2.1	4.3
	総戸数	(戸)	3	7		うち、農業関連議題数	(種類)	0.6	1.3
	うち、農家数	(戸)	2	5		うち、生活関連議題数	(種類)	1.5	3.0
	耕地面積(属地)	(ha)	8	9		集落で農道を維持・管理	(%)	37.9	59.9
	うち、田面積	(ha)	2	3		集落で農業用排水路を維持・管理	(%)	31.0	53.7
集落の立地	過疎地域	(%)	68.6	64.4	生活環境	集落で生活関連施設を維持・管理	(%)	51.7	72.7
	振興山村地域	(%)	62.9	49.4		地域活性化等のための組織がある	(%)	42.9	74.1
	豪雪地帯	(%)	68.6	57.5		地域活性化等のための組織数	(組織)	0.9	1.6
	うち、特別豪雪地帯	(%)	48.6	18.4		集落で交流事業に取り組んでいる	(%)	5.7	14.4
	特定農山村地域	(%)	71.4	55.7		市町村役場まで15分未満	(%)	31.4	51.7
	林野率	(%)	84.4	60.9		農協まで15分未満	(%)	40.0	63.2
	中心地の標高	(m)	334	234		警察・交番まで15分未満	(%)	45.7	63.2
	集落の地勢が平野・盆地	(%)	22.9	40.8		病院・診療所まで15分未満	(%)	40.0	52.3
	集落の地勢が高原・裾野	(%)	11.4	13.2		小学校まで15分未満	(%)	42.9	48.9
農業生産環境	集落の地勢が山間・渓谷	(%)	65.7	46.0		中学校まで15分未満	(%)	31.4	36.8
	農家率	(%)	65.6	72.8		公民館まで15分未満	(%)	40.0	58.0
	構集落成員の高齢化率	(%)	50.7	35.9		スーパー・百貨店まで30分未満	(%)	48.6	69.5
	水田がある	(%)	51.4	64.4		インターチェンジまで1時間未満	(%)	48.6	54.6
	集落の水田率	(%)	27.4	37.7	注. 2000年の農業集落調査において総戸数が9戸以下であった小規模集落のうち、①生活環境の調査が行われていない都市的地域の集落、②2010年調査との接続関係が不明な集落、③2000年以降に集落の区域変更(合併・分割)が行われた集落を除く3,802集落を分析対象とし、その中から「無人化した集落」35集落、「総戸数と人口が増加した集落」174集落を抽出し集計した。なお、数値はすべて2000年時点のものであり、数値の大きい方を編みかけた。				
	田の区画整理率	(%)	22.9	45.6					
	うち、30a区画以上	(%)	8.0	12.6					
農業生産環境	実行組合がある	(%)	48.6	67.2					

8. 無人化集落・無人化危惧集落の事例

- 先行研究の事例報告から集落が無人化した要因を見ると、①積雪地帯における冬期間の生活環境の厳しさ、②子供の教育問題（幼稚園の通園や小学校の通学）、③山仕事がなくなったことによる稼得機会の消失等が挙げられる。
- 近隣に転居した農家が、無人化した後も通作して営農しているところも少なくないが、自給用野菜等の小規模な営農がほとんど。無人化した上流部の集落が行っていた用水管理を下流部の集落が行わざるを得なくなり、負担が増大している事例も報告されている。

表5 無人化集落・無人化危惧集落の事例

	所在地	調査時点の戸数 (無人化した時期)	無人化・戸数減少した理由・背景	調査時点における農地等の管理状況
事例A	山形県山辺町	0戸 (1996年頃)	昭和40年代には15戸程度存在していたが、積雪による生活の困難さや農地条件の悪さ等により徐々に世帯数が減少。最後の農家は町内の市街地に移転。	農地はすべて耕作放棄。家屋は廃墟。集落が無人化したことによって周辺に廃棄物の集積場が立地。
事例B	山形県白鷹町	0戸 (1997年頃)	15世帯程度の集落であったが、山仕事がなくなったこと、子供の学校のことを考えて市街地等に徐々に転出し無人化。	市街地に移住した数名が、今でも集落に通作。畑で主に自給用野菜を生産（水田は放棄）。
事例C	山口県錦町(旧F村)	0戸 (2005年)	20世帯程度の集落であったが、S38年豪雪災害で一気到他出者が増加。その後も、高地で行き止まりの北斜面に位置し、集落への道のりが険しい等、生活環境が厳しいことから世帯数が減少し、集落内に残っていた最後の世帯が他出し無人化。	一部では廃屋となった庭先で野菜作りや植林等が行われている。避暑地として夏場に帰省している事例もある。
事例D	新潟県糸魚川市N地区	0戸 (1973~2002年)	地区内の6集落が無人化。いずれの集落も標高300m以上で地区の中心から5km以上離れている。豪雪地帯であることから、冬場の生活条件が無人化の最大の要因。	3集落で通作による営農が行われているが、面積はごく僅か（3集落合わせても1ha弱）。用水の管理を下流部の集落が担当しているところがあるがその負担が大きい。
事例E	山形県大江町	1戸	20数戸の集落であったが、子供の教育環境の問題から集落内で中心的な存在であった農家が転出。その後、雪崩を打って県外および近隣市町村に各8戸、町内に5戸が転出。現在、独居の高齢女性世帯が1戸残っているのみ。	町内に移転した農家のうち数戸が通作しているほか、夏場のみ、県外に転出した1戸の農家が元住居に滞在し野菜等を栽培。生産森林組合で造成した60haの森林と10haの共有林があり、年1回、日曜日に総会を開催。
事例F	島根県出雲市(旧S町)	3戸	30年前は14世帯程度あったが、道路条件が悪く冬場は雪で孤立化するため世帯数が減少。現在は単身世帯が3戸（うち、2戸は高齢者）。	集落内の農地は最盛期の1/3に減少。他出した農家の農地は耕作放棄（受け手がいない）。

出典：事例A、B、Eは研究代表者両角和夫（2004）「農業集落の崩壊過程に関する研究」（平成13～15年度科学研究費補助金成果研究報告書）、事例C、Fは農村開発企画委員会（2006）「平成17年度 限界集落における集落機能の実態等に関する調査報告書」、事例Dは橋口卓也（2008）「条件不利地域の農業と政策」（農林統計協会）による。

9. 集落の小規模化・高齢化による集落活動への影響予測

- 集落の小規模化・高齢化によって、農業用排水路の保全・管理を出来なくなる集落が増加。山間農業地域では管理集落割合が10ポイント以上低下すると見込まれる。
- 集落機能が低下し、寄り合いを開催する集落割合も低下。全体的には「集落行事」に比べ、「農業生産」に関する議題で寄り合いを開催する集落割合の低下の方が大きい。山間農業地域では前者の開催割合が大きく低下しているのが特徴的である。

表6 集落の小規模化・高齢化の進行による集落活動への影響（試算）

① 農業用排水路の保全・管理

	農業用排水路 がある集落(2010年)		集落で保全・管理を実施							
	集落数 (集落)	田面積 (属地面積： 1,000ha)	管理集落数 (集落)		集落割合 (%)		管理田面積 (1,000ha)		田面積割合 (%)	
			2010年	2050年	2010年	2050年	2010年	2050年	2010年	2050年
全 国 計	126,132	2,477	92,162	84,716	73.1	67.2	2,007	1,925	81.0	77.7
都市的地域	26,993	425	17,786	16,433	65.9	60.9	319	308	75.1	72.7
平地農業地域	33,425	1,109	25,814	24,825	77.2	74.3	896	875	80.8	78.9
中間農業地域	42,858	685	32,100	29,378	74.9	68.5	575	541	83.9	78.9
山間農業地域	22,856	258	16,462	14,080	72.0	61.6	217	201	84.1	77.8

② 寄り合いの開催

	2010年の 総集落数	農業生産にかかる事項				集落行事の計画・推進			
		実施集落数 (集落)		実施割合 (%)		実施集落数 (集落)		実施割合 (%)	
		2010年	2050年	2010年	2050年	2010年	2050年	2010年	2050年
全 国 計	139,176	82,062	73,643	59.0	52.9	106,715	100,856	76.7	72.5
都市的地域	31,017	16,511	13,927	53.2	44.9	20,604	20,110	66.4	64.8
平地農業地域	35,209	24,990	24,205	71.0	68.7	28,535	28,197	81.0	80.1
中間農業地域	46,532	27,284	24,644	58.6	53.0	37,070	35,208	79.7	75.7
山間農業地域	26,418	13,277	10,867	50.3	41.1	20,506	17,342	77.6	65.6

注. 2050年の管理集落数および管理田面積は、集落ごとのコーホート分析で推計した集落人口により人口規模（12区分）と高齢化率（5区分）を求め、地域類型別に2010年時点の高齢化区分×人口規模区分別の管理割合（農山村地域調査）を乗じて推計した。

【参考表】 「無人化危惧集落」・「高齢化進行集落」数とこれら集落に賦存する資源量の推計結果（農業地域類型別）

①「無人化危惧集落（人口が9人以下の集落）」の資源総量とシェア

	2010年総集落数 (農山村地域調査)		無人化危惧集落数				総土地面積				耕地面積 (属地面積)				田面積			
			2010年		2050年		2010年		2050年		2010年		2050年		2010年		2050年	
	集落数 (集落)	割合 (%)	集落数 (集落)	割合 (%)	集落数 (集落)	割合 (%)	面積 (1,000ha)	シェア (%)	面積 (1,000ha)	シェア (%)	面積 (ha)	シェア (%)	面積 (ha)	シェア (%)	面積 (ha)	シェア (%)	面積 (ha)	シェア (%)
全 国 計	139,176	100.0	3,092	2.2	14,921	10.7	1,168	3.5	5,952	18.0	53,753	1.2	309,989	6.8	11,188	0.5	98,809	4.0
都市的地域	31,017	100.0	150	0.5	497	1.6	46	1.3	183	5.1	2,915	0.4	13,474	1.9	1,822	0.4	7,924	1.9
平地農業地域	35,209	100.0	252	0.7	1,045	3.0	119	2.2	419	7.7	17,419	0.9	89,934	4.4	3,804	0.3	22,255	2.0
中間農業地域	46,532	100.0	1,109	2.4	5,390	11.6	293	2.7	1,427	13.1	16,655	1.3	103,543	7.8	2,767	0.4	32,131	4.7
山間農業地域	26,418	100.0	1,581	6.0	7,989	30.2	709	5.4	3,924	29.9	16,764	3.3	103,038	20.4	2,795	1.1	36,499	14.1

①のうち、「高齢化率が50%以上の集落」

	2010年総集落数 (農山村地域調査)		高齢化進行集落数				総土地面積				耕地面積 (属地面積)				田面積			
			2010年		2050年		2010年		2050年		2010年		2050年		2010年		2050年	
	集落数 (集落)	割合 (%)	集落数 (集落)	割合 (%)	集落数 (集落)	割合 (%)	面積 (1,000ha)	シェア (%)	面積 (1,000ha)	シェア (%)	面積 (ha)	シェア (%)	面積 (ha)	シェア (%)	面積 (ha)	シェア (%)	面積 (ha)	シェア (%)
全 国 計	139,176	100.0	2,698	1.9	13,094	9.4	1,002	3.0	5,301	16.0	34,730	0.8	269,277	5.9	7,339	0.3	84,119	3.4
都市的地域	31,017	100.0	131	0.4	440	1.4	41	1.1	150	4.1	2,401	0.3	11,660	1.7	1,427	0.3	6,775	1.6
平地農業地域	35,209	100.0	123	0.3	857	2.4	40	0.7	350	6.4	5,582	0.3	74,540	3.7	1,568	0.1	17,737	1.6
中間農業地域	46,532	100.0	965	2.1	4,770	10.3	247	2.3	1,289	11.8	11,987	0.9	91,129	6.9	1,965	0.3	27,698	4.0
山間農業地域	26,418	100.0	1,479	5.6	7,027	26.6	674	5.1	3,512	26.8	14,760	2.9	91,948	18.2	2,379	0.9	31,909	12.3

注. 集落ごとのコーホート分析によって集落人口が9人以下となった集落を「無人化危惧集落」、老年人口比率が50%以上となった集落を「高齢化進行集落」とし、これら集落に賦存する2010年時点の資源量を集計した。

②「高齢化進行集落（高齢化率が50%以上の集落）」の資源総量とシェア

	2010年総集落数 (農山村地域調査)		高齢化進行集落数				総土地面積				耕地面積 (属地面積)				田面積			
			2010年		2050年		2010年		2050年		2010年		2050年		2010年		2050年	
	集落数 (集落)	割合 (%)	集落数 (集落)	割合 (%)	集落数 (集落)	割合 (%)	面積 (1,000ha)	シェア (%)	面積 (1,000ha)	シェア (%)	面積 (ha)	シェア (%)	面積 (ha)	シェア (%)	面積 (ha)	シェア (%)	面積 (ha)	シェア (%)
全 国 計	139,176	100.0	13,021	9.4	23,669	17.0	5,214	15.8	9,707	29.3	227,539	5.0	669,560	14.7	102,195	4.1	279,681	11.3
都市的地域	31,017	100.0	487	1.6	554	1.8	149	4.1	172	4.8	13,198	1.9	21,139	3.0	7,808	1.8	10,972	2.6
平地農業地域	35,209	100.0	741	2.1	2,124	6.0	148	2.7	575	10.6	37,916	1.9	165,847	8.1	16,912	1.5	58,335	5.3
中間農業地域	46,532	100.0	4,960	10.7	10,596	22.8	1,266	11.6	3,114	28.5	91,557	6.9	284,271	21.5	39,540	5.8	119,322	17.4
山間農業地域	26,418	100.0	6,833	25.9	10,395	39.3	3,652	27.8	5,845	44.6	84,868	16.8	198,303	39.3	37,935	14.7	91,052	35.2

注. 集落ごとのコーホート分析によって集落人口が9人以下となった集落を「無人化危惧集落」、老年人口比率が50%以上となった集落を「高齢化進行集落」とし、これら集落に賦存する2010年時点の資源量を集計した。